

家庭教育支援チーム

(1)活動主体(チーム)について

①チーム名 (呼称)	新宿区家庭教育支援チーム (呼称: ママ解放区プロジェクト) URL: http://bloomingmom.jp/mom-project
②活動拠点	新宿区
③活動範囲	東京都新宿区・八王子市・埼玉県上尾市エリア
④組織体制	5 人 特別支援教育支援員・子育て支援アドバイザー・育児経験者・ 母親支援コミュニティ代表 他
⑤活動開始年度	2017 年度
⑥問合せ先	(部署・氏名等) ママ解放区プロジェクト事務局 (TEL) (E-mail) bloomingmom@gmail.com

(2)活動内容について

①活動形態 (複数チェック可能)	<input checked="" type="checkbox"/> 保護者等への学びの場の提供 <input type="checkbox"/> 保護者等への地域の居場所づくり <input type="checkbox"/> アウトリーチ型家庭教育支援(※保護者の居場所に出向いて届ける支援) <input type="checkbox"/> 自宅に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/> 保育所・幼稚園・学校等に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/> その他の保護者に届ける支援(情報提供、相談対応等) <input type="checkbox"/> その他()
②活動対象 (複数チェック可能)	<input checked="" type="checkbox"/> 乳幼児 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(低学年) <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(中学年) <input checked="" type="checkbox"/> 小学生(高学年) <input checked="" type="checkbox"/> 中学生 <input checked="" type="checkbox"/> 高校生以上 の子供を持つ保護者に対する活動を実施

③活動内容

1. 母親交流会(オンライン・対面型のハイブリッド形式)

月1回開催する「ママ解放区 * ツキイチ交流会」では、新宿本部が中心となり全国の母親を対象に実施。

主なテーマとして、発達障害(ADHD・自閉症・ADD など)の特徴を持つ子の育児について、フリートーク形式で会話する。

子連れでも参加できるように工夫をし、育児中の不安や悩みを打ち明け、共感してもらうことや先輩ママからのアドバイスを聞くことで、ストレスや不安の軽減を図ることを目的として活動している。



▲「ママ解放区 * ツキイチ交流会」の様子(オンラインで開催している時の様子。)



▲「ママ解放区 * ツキイチ交流会」の様子(八王子支部での対面イベント交流会。)

2. ママ解放区「ファシリテーター養成講座」

身近にいる母親の気持ちに寄り添い、お互いを尊重しながら、育児の大変さ・不安や悩みを軽減させ、楽しさを倍増させるような育児環境を整えることを目的とする。

また、母親だけでなく、母親の周りにいる家族・職場・企業・学校など、関わる全ての人たちに育児をしている母親の大変さや、睡眠不足、子育てに対するプレッシャー(実の両親・義理の両親の子育てに対する考え方などを配慮している現状)、発達障害の心配、発育に関しての悩みなどの理解を促す内容をワークショップ形式で学ぶ。

さらに、母親自身も周囲に誤解を与えてしまうような態度では、社会との軋轢(あつれき)や、不理解が生じる原因にもなるため、マナーや公共の場での躰・態度のあり方についても考察する。

なお、この講座は、子育ての現状や対処法などの知識や経験を通じて、孤育てや心理的な変化を学び、その気持ちを共有する場を進行する人を養成

する講座であり、母親を取り巻く環境の理解・進行のノウハウ・講座開講の仕方・コミュニケーション術なども学ぶ内容としている。

<受講対象>

- ・乳幼児、小・中・高生の母親
- ・母親支援をしたい個人・団体・企業
- ・プレママ、プレパパ、学生、祖父母
- ・ボランティア活動に興味のある方や、社会貢献に関心のある方 など

3. ママ解放区マークの推進

パソコン・スマートフォン・手帳・カバンなどに貼ることで、サポーターであることを示す。

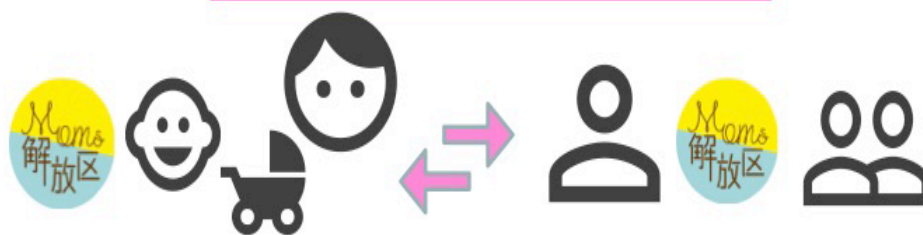
育児中のママ・パパだけでなく、おじいちゃん・おばあちゃん・学生さん・プレパパ・プレママなど、あらゆる世代の方に利用を目的とし、飲食店・企業・公共交通機関や行政などでの理解を示すマークとしての利用を促進する。

それぞれの願う「ママ解放区」にとってのコミュニケーションツールとして活用することも目指す。

もし、目に入るところに貼っていないとしても、持っていることが自身にとっての意思表示の表れとして、普及させたい。

このような相手を思いやるコミュニケーションが生まれ、「大変だよね」「頑張ってるわね」という声かけをしてもらえるだけでも、閉塞的になりがちな母親の気持ちを和らげ、日々の育児疲れが軽減されることが多いことから、日本中で育児に奮闘するママと、その周りの人たちとの架け橋になるマークとして普及を目指していく。

ママ解放区マークの使用法



ママが身につけている場合	赤ちゃんと一緒に居ない方の場合 (男性・学生・既婚・未婚の方など)
<p>ママが身につけている場合は、温かく見守ってほしい・手助けして欲しいというメッセージがほとんどです。</p> <p>駅などで、階段を登り降りするときにベビーカーと一緒に運んでもらえたり、飲食店でトイレに行きたいときなどの数分間に赤ちゃんを抱っこしてもらいなど、とっさのサポートをしてほしい時や、声をかける勇気、サポートを受ける素直な気持ちを与えてくれます。</p> <p>例) エレベーターに乗りたい・トイレに行きたい・話を（気が済むまで）聞いてほしい</p>	<p>赤ちゃんと一緒に居ない方が身につけている場合は、「ママ解放区のサポーターだから気軽に声をかけてね!」というメッセージだったり、「荷物運びましょうか?」などの声かけが自然にできるような後押しをしてくれるマークとして役割を發揮します。</p> <p>声をかける勇気がなくても、ママを応援しているよ、というメッセージにも!</p> <p>例) 「大丈夫ですよ。」「お先にどうぞ。」「どうしますか?」「ママも泣きたいよね。」など</p>

④活動の成果 (活動実績がある場合)

- 発達障害について相談することが出来ずに、一人で悩んでいた母親が、同じような境遇にいる母親と話すことで、専門家に相談することができた。
 - コロナ禍で閉塞的な日々を送っていたが、オンラインで気楽に話せる場所があり、夫との喧嘩が減った。
 - 中学校受験の相談や、発達障害の適性テストのことなど、知らなかった情報を知ることができた。
- などの報告があります。

⑤活動財源 (複数チェック可能)

- 文部科学省補助事業(事業名:)
 - 文部科学省委託事業(事業名:)
 - 厚生労働省事業(事業名:)
 - 地方公共団体単独事業として実施
 - 特段の予算措置はない(自主的に活動を実施)
 - その他の支援により活動を実施
- ()